

令和元年度 卒業式 式辞

「力耕不吾欺（りきこうわれをあざむかず）」 取一精神として長く受け継がれてきたこの言葉が私は大好きです。これまで何回も、いろいろな行事の度に卒業生の皆さんの前で取り上げてまいりました。お手元の卒業証書授与式パンフレットの表紙にもこの言葉を入れさせていただきましたが、卒業生の皆さんの前で、この言葉について話すのも今日が最後となってしまいました。

「力耕不吾欺」は、中国の詩人 陶淵明の「移居」という二つの詩の最後の部分です。本校とつながりのあった小川芋銭が、請われて書いたのがこの「力耕不吾欺」。どのような思いで筆を執ったのかは想像するしかありませんが、この扁額が校長室に掲げられています。「帰るなんいざ」で有名な「帰去来辞」の前、彼は、自ら官吏の職を辞したり、妹を亡くしたりと不遇な生活を送っていたようです。その後火事で家を失い、転居した後のことを記したものが「移居」。これが取一精神として受け継がれてきたことの意義を考えることもまた卒業生としての責務になると考えます。

さて、卒業生の皆さん、ご卒業おめでとう。本校での学びも今日が最後です。ここで皆さんとの思い出を少し振り返ってみたいと思います。部活動をはじめ、文化祭や野球応援等で見ていただいた、皆さんの逞しい姿が印象的な本校での時の流れは、私にとっても大変感慨深いものとなりました。

「雁耕祭」では、生徒の皆さんとバンドを組んで「愛は勝つ」を唄わせてもらいました。本当にありがとうございます。校長室にキーボードを持ち込んで練習した思い出は、取手一高での大きな宝物となりました。この「雁耕祭」では、実行委員会と生徒会が一緒になって、本当に素晴らしい文化祭を創りあげてくれました。実行委員長 林君の、特に後輩の皆さんへの感謝の気持ちは、大変清々しいものでした。

そして夏の野球応援。昨年の夏は小雨交じりの寒い日が多く、応援委員の皆さんも体調管理が難しかったと思いますが、全力の応援をしてくれました。ありがとうございます。この野球応援を含めて、できるだけ多くの部活の試合に顔を出すようにしてまいりましたが、そこには、いつも保護者の皆さんの涙がありました。そしてこの涙に、自分も涙しておりました。勝っても負けても涙。こういったことが、実は教育活動の根っこにあるのではないのでしょうか。そんなことを強く感じた日々でした。うまく言葉にすることはできませんが、いわば無償の愛のようなものをそこに感じ、本日もその気持ちを強く持ってここに立っています。

そして、10月に開催された「いきいき茨城ゆめ国体」では自転車競技部の皆さんが、素晴らしいパフォーマンスを見せてくれました。この時は年次応援、そして木村君の決勝の走り際には、クラス応援をしてもらいましたが、たぶん初めて見る同級生の走りは、皆さんにはどう映ったでしょうか。

「力耕」の実践を成し遂げてくれた自転車競技部の皆さん、天皇杯・皇后杯獲得 本当におめでとう。そしてありがとうございます。皆さんの活躍は本校の誇りであり、また関わっていただいた皆さんへの大きな励みとなります。「思い出は人生を支えてくれる」という話題もまた、いろいろな行事の度に皆さんの前で取り上げてまいりましたが、自転車競技部の優勝は、在校生、教職員を含め、多くの方々のこれからの人生を支えてくれるものとなりました。

さて、しかしながら人生はこのような良いことばかりとは限りません。時として、大変辛い時期を過ごすことになる事もあります。

私は今年の本校「図書館だより」に、村上春樹さんの『村上ラヂオ2』のなかに収められている「ベネチアの小泉今日子」というエッセイを紹介しました。このなかに、このような下りがあります。

「（前略）少しあと、一人でベネチアを旅行することがあった。当時、個人的にずいぶんつらいことがあった。胸が息苦しく、意識がぼらぼらになったままひとつにまとまらないような状態だった。（中略）この人生においてこれまで、本当に悲しい思いをしたことが何度かある。（中略）言うまでもないことだけれど、無傷で人生をくぐり抜けることなんて誰にもできない。でもそのたびにそこには何か特別の音楽があった。（後略）」

村上氏は、とても辛い状況の中、「異国の地」ベネチアで「ヘッドホンで繰り返される小泉今日子の歌」を聞いたようです。それが何であるかは明記されていませんが、いずれにしても、村上氏はこの場で小泉今日子の音楽を必要とした、ということがわかります。

卒業生の皆さん、どうか、あなたにとっての「ベネチアの小泉今日子」を見つけてください。もしそれが、本校での3年間のかげがえのない日々の一コマであれば、と強く願います。

さて、同窓会入会式の折、私は荒井由実さん、松任谷由実さんの「卒業写真」を演奏しました。その歌詞のように、「あの頃の生き方を あなたは忘れないで」下さい。皆さんが手にする卒業アルバムには、皆さんの「あの頃」が詰まっています。苦しくなった時、そして悲しくなった時、この卒業アルバムを開いて下さい。そこにある友の笑顔と共に、この学舎で過ごした思い出が、きっと皆さんを支えてくれるでしょう。そして、再び本校を訪れて、新たな思い出を話しに来て下さい。我々教職員一同、皆さんが気持ちよく訪れたいと思う取手一高になるよう、さらに精進を続けて参りたいと思います。

結びとなりますが、この3年間、皆さん一人一人を励まし支援を惜しまなかった3年次の先生方をはじめ、本校すべての教職員を代表して、前途洋々たる未来に旅立つ皆さんに幸多からんことをお祈りするとともに、心より御礼を申し上げまして式辞といたします。

卒業生の皆さん、おめでとう。そしてありがとうございました。

令和2年 3月1日

茨城県立取手第一高等学校長 田村 和浩